

牛久：学校周辺に見る自然

第3号

ひたち野うしく小学校・中根小学校

2010年4月30日発行

<つくし誰の子、スギナの子>

皆さん、こんにちは。今回は、先日のひたち野うしく小と、4/27の中根小と、同じ観察をしたスギナについてのお話です。

①スギナ（シダ植物）



「つくし誰の子、スギナの子・・・」という歌を知っていますか？ 春、まだ他の草があまり生えてこない頃から、つくしんぼが伸びてきます。しばらくするとそのそばに、緑色のスギナが生えてきますね。それで私は観察中に、「では、スギナとつくしは仲のいい友達なんだろうか？」と問いかけました。そして上右のような写真を見せました。そう、つくしとスギナとは地面の下でつながっていたのです。つまり、スギナとつくしは同じ体の一部分だったのですね。スギナは冬の間も根が生きています。前の年までにお日様の光をあびて自分の栄養をつくり、根にたくわえ、その一部を使って、春先につくしを伸ばし、その先にたくさんの「孢子」とよばれる子どものもとをつくります。はじくと緑がかった煙のようにとんでいく、あの細かい粉がそうです。



スギナのような特徴をもった植物を「シダ植物」といいますが、他に次のようなものもあります。左はヤマドリゼンマイ。茶色いのが「孢子」をつくる葉で、黄緑色のが栄養をつくる葉。根ぎわから一緒に束になって出ているのがわかりますね？

右はベニシダの葉。葉の裏に「孢子」をつくる袋が並んでいます。シダの仲間には、このようなタイプが一番多いようです。

シダは、タンポポやツバキなど、花を咲かせ種子をつくる植物が現れるよりもずっと前からこの地上にいた植物なのです。



【理科支援員・宮内】